

吸血虫 蛭

どこの田んぼにも蛭はあった。

水が濁りわずかな熱を感じると体をくねらせながら音もなく近づいてきて吸い着くんやや。

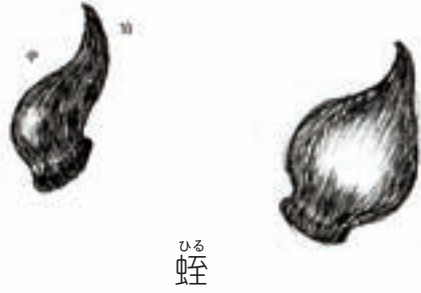
いったん吸い着くと容赦なく血を吸い続け体が丸くなると「ロンと落ちる。

そのあとが大へんやった。吸い口から血がにじみ出てきて、なかなかとまらないやさ。おまけにその跡が痒いのなんの！水を張った田んぼに入る時は塩を入れた缶詰めの缶を腰につけ、つかまえるところの中に入れる、蛭は塩にまみれて死んでまっくんやが、ちよこつとへらいつかまえてやつつけても田んぼの蛭が減ることにはなかつたんやさ。

瀉血…古来、高血圧などの治療で、静脈

から一時に多くの血を出す為に蛭を用いた。

蛭の体は、伸びたり縮んだりするんやが



協力

西蚊塚区長

協力者

- 末松 勝美さん (73歳)
- 岩田 豊さん (84歳)
- 坂 孝男さん (83歳)
- 堀 進さん (78歳)

あの頃の『広報あんぱち』

～平成5年2月号の記事より～

冬空に鮮やか水柱 13本
～平成5年安八町消防出初式～



あの頃を振り返って
安八町東結 在住
岡田 利彦 さん

当時、岡田利彦さんは、安八町消防団第1分団長としてご活躍されていました。



▲表紙

消防団では、規律訓練、操法訓練、火災出動、夜警等、様々な活動に参加したことをとても懐かしく思っています。その他にも、小・中学校のPTA役員や育成会の活動にも参加してきました。

現在は、町スポーツ推進委員としての活動に参加しています。さて、20年前を振り返ると、主として消防団員としての経験が、現在の私の人生に活かされていると思います。

消防団員としての各種訓練は、当然厳しいものもありましたが、仲間たちと一緒に頑張ったからこそ乗り越えることができたと思っています。今では、その仲間たちと会うたびに当時の話で盛り上がることもあります。とても良い思い出です。今後も、いろいろな活動に積極的に参加し、多くの人たちと交流を深めたいと思っています。



▲力強く分列行進する消防団員ら (まちのトピックス)